

# 中国語母語話者の「舌打ち」の コミュニケーション機能について<sup>1)</sup>

于 康

## 1. 問題提起

言語や非言語のコミュニケーションにおいて、音声の有する機能は極めて重要であるが、それについての研究はいくつか見られるものの、まだまだ詳しく掘り下げなければならない問題が数多く残っているのが現状であろう。神戸大学の定延利之氏と県立広島大学の友定賢治氏が中心になって、日本語音声コミュニケーション研究会が立ち上げられ、主としてMLで情報交換やディスカッションが行われているのは、まさにそのような現状認識に基づくものと思われる。ある日、友定氏から以下のメールが届いた。

中国人の方は、話の途中で、日本語でいうと「舌打ち」をよくなさいますよね。ただ、非常勤出講先での授業に中国人留学生が2名いるのですが、その人たちは、自分が「舌打ち」をよくすることに気づいていませんでした。もちろん日本人の「舌打ち」とは、意味合いが異なると思うのですが、誰が、どのようなときにするものなののでしょうか。個人的なものでしょうか。

○中国語では、これを何と呼んでいるのですか。

○非常勤出講先の留学生は、中国語で話すときだけでなく、日本語で話すときにも「舌打ち」が入ります。

---

1) 本稿は作成後も、定延利之氏や友定賢治氏から貴重なご意見を頂戴した。厚く御礼を申し上げます。

○日本人の学生は、日本語の「舌打ち」と思ってしまい、留学生に「舌打ちされた」といっていましたから、コミュニケーションギャップにつながることもありそうです。

筆者は中国語母語話者であるが、自分の会話を録音して観察してみると、確かに気づいていないうちに「舌打ち」をしてしまったことも多かったことがわかった。また、中国語母語話者が何気なく行った「舌打ち」は、日本語母語話者の相手に不快感を与えてしまった事実も何回も耳にしていた。

ところで、文献の用例を確認してみると、(1)～(4)のように、日本語母語話者の「舌打ち」は、必ずしもそのすべてが悪い気持ちを表すものではなさそうだ。

- (1) 其大饗ノ下、侍共ノ食ケル中ニ、此五位、其座ニテ、暑預粥ヲ飲テ、舌打ヲシテ、「哀レ、何カデ暑預粥ニ飽カム」ト云ケレバ、利仁、此ヲ聞テ、「大夫殿、未ダ暑預粥ニ飽セ不給カ」ト云ヘバ、五位、「未ダ不飽侍」ト荅フ。(今昔物語集 25 卷)<sup>2)</sup>
- (2) 「困った。……何うしよう？……言って了解おうか。」と一寸小首を傾けたが、「言おうかなあ……言わないで置こうかッ。」と一つ舌打ちをして、「言ったら、さぞあなたが愛想を尽かすだろうなあ！」と独りで思案にくれて、とつおいつしている。(別れたる妻に送る手紙・近松秋江)
- (3) それから、くつろいだ心持の自然な順序で何心なくテーブルへ肘を置こうとして、光井は埃のひどさにびっくりした顔でそう悪気もない舌打ちをした。(道づれ・宮本百合子)
- (4) 「止まれッ！」ロシアの娘を連れ出したメリケン兵が酒場から帰って来る時分だ。「止まれッ！」馭者のチョッ／＼という舌打ちがして、櫓は速力をゆ

2) 本稿で使っているデータは次のようになる。作品やコーパスについて、次のようなものを使った。(1) 日本古典文学本文データベース(国文学研究資料館、『日本古典文学大系』全作品(旧版、岩波書店刊)の全作品(100巻580作品)の本文)、(2) 青空文庫、(3) 『新潮文庫の100冊』新潮社1996、『明治の文豪』新潮社1997、『大正の文豪』新潮社1997、『新潮文庫の絶版100冊』新潮社2000、(4) 筆者が作成したコーパス(出典:「ネット小説ランキング」)。(5) 《中日対訳語料庫》(北京日本学研究中心2003)、(6) 北京大学漢語語言学研究中心 CCL 語料庫検索系統。(7) ホームページの使用例。

于：中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

るめた。「誰だ?」「心配すんねえ!……えらそうに!」声で、アメリカ兵であることが知れた。[氷河黒島傳治] 168

しかし、これまでの用法はどうであれ、次の(5)に示されているように、現代の日本語母語話者は、殆どの場合、「舌打ち」が人に不快感を与えると認識しているようである。

(5)「じゃあ、今日の話はなかったことにして、知らねえふりして奈津と結婚するか?」「できるかっ!」いきなりそんな問題発言をするか、フツー。ちっ、とか舌打ちすんな。本気だったのかよ。第一、それじゃ何の解決にもなっていない。(simple life<sup>29</sup>)

一方、日本語母語話者に見られる「舌打ち」が、中国語母語話者では、どのような動作を指し、何を意味するのかは必ずしも理解されているわけではないというのも事実である。というのは、中国語母語話者にとって、「舌打ち」と思われる動作や音声が必ずしもつねに不快感を与えるメッセージではないからである。

そこで、中国語母語話者と日本語母語話者との間で、「舌打ち」が表す伝達意味が異なるとすれば、どのように異なっているのか、それぞれどのような表現形式やコミュニケーション機能を有するのかが問題になってくる。しかし、「舌打ち」についての先行研究を調べてみたが、管見の所、なかなか見つからなかった。が、これらの問題の解明は、音声コミュニケーションの研究だけでなく、日本語教育や中国語教育にも役に立つものであるから、定延氏や友定氏とともに共同研究を始めたのである。本研究は、その共同研究の一環として、中国語母語話者の「舌打ち」に相当する表現形式を用例から見出して記述し、それぞれのコミュニケーション機能を明らかにしようとしたものである。

## 2. 中国語母語話者の「舌打ち」の表現形式

日本語母語話者の「舌打ち」を言語化する際、「チェッ」「チェ」「チッ」「チ」「チョッ」が使われることがあるが、言語化できずに「舌打ちをする(した)」を用いてその

エクス 言語文化論集 巻下先生退職記念号

動作を記述することも少なくないようである。つまり、オノマトペと動作記述との間に意味機能のずれが存在するのである。

「舌打ち」を、中国語でどのように言語化すれば適当であるかは更なる研究が必要であるが、それに近い表現として、“嘖 ze” や“咂 za” “咂嘴 za zui” といったものが上げられると思われる。後で詳細に論じるが、“嘖” 類の表現形式が擬声音で、“咂” 類の表現形式が動詞または V + N であり、両者は、品詞における分類が異なる。以下において、“嘖” “咂” “咂嘴” の表現形式とその意味を詳細に考察してみる。

### 3. “嘖” について

#### 3.1 “嘖” についての辞書の解釈

“嘖” は、“zé” と発音し、“嘖嘖” のように重なった形として使われることが多い。以下では、辞書の解釈を確認してみる。

単漢字の“嘖” の意味について、

《現代漢語辞典》第5版(2006)<sup>3)</sup>では、

- ①〈书〉争辩（〈書き言葉〉言い争う）。
- ②〔拟声〕形容咂嘴声（〔擬声〕舌を鳴らす音を表す）。

《现代汉语大辞典》(2000)<sup>4)</sup>では、

- ①形容很多人说话、议论的样子（大勢の人々が話したり議論したりする様子を表す）。
- ②叹词。表示赞叹。常叠用（感嘆詞。賛嘆を表す。よく重なった形として使われる）。

『中日大辞典』(1987)<sup>5)</sup>では、

- ①〔擬〕賞賛・うらめしさ・さげすみなどを表す舌打ちの音：褒めたたえる

3) 中国社会科学院语言研究所辞典编辑室编《現代漢語詞典》第5版，商务印书馆 2006

4) 《现代汉语大辞典》汉语大辞典出版社 2000

5) 愛知大学中日大辞典編纂処編集『中日大辞典』大修館書店；増訂第二版 1987

于：中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

時にも用いる。〔～～！他真能干〕すごいすごい！彼は実によくやる。〔～～！他們的官僚主义怎么到了这种地步！〕チエッ、あいつらの官僚主義がどうしてこんなにもなったか。

②×大声で叫ぶ。やかましくいう。言い争う。

③⇒〔嘖〕

『学研漢和大辞典』（2002）<sup>6)</sup>では、

「舌打ちや、ざわざわと聞こえる話し声をあらわす擬声語」。

①ざわざわと声を出して、いい争ったり、しきりに騒いだりする。また、そのさま。また、鳥がやかましく鳴く。《類義語》客(サ)。〔嘖有煩言＝嘖として煩言有り〕〔春秋左氏伝・定四〕

②「嘖嘖(サクサク)」とは、しきりに舌打ちしてほめるさま。▽中国ではほめるときにも舌打ちをする。「好評嘖嘖」。

と解釈している。それに対し、重なった形の“嘖嘖”の意味について、

《現代漢語辞典》第5版（2006）では、

①〔拟声〕形容咂嘴或说话声（〔擬声〕舌を鳴らす音や話し声を表す）：～称羨（舌を鳴らしながらしきりに感心する）|人言～（あちこちから人の議論が聞こえる）。

②〔书〕形容鸟叫的声音（〔書き言葉〕鳥の鳴き声を表す）：雀声～（雀が鳴いている）。

『中日大辞典』（1987）では、

①盛んに褒めはやすさま。〔名声～〕嘖々(さくさく)たる名声がある。〔关胜提刀立在阵前，看了良久，～叹赏不绝〕（水66）関勝は刀をひっさげ陣頭に立ち眺めることしばし、ため息をつき賞賛することしきりだった。〔～不已〕しきりに褒めたたえる。〔～称奇〕しきりに珍しいといって褒める。

6) 藤堂明保・松本昭・竹田晃・加納喜光『学研漢和大字典 全 JIS 漢字版』学習研究社 (C)Gakken 2002

エクス 言語文化論集 卷下先生退職記念号

②口やかましく言い合うさま.

③鳥の鳴き声.

『中日辞典第2版』(2003)<sup>7)</sup>では、

①舌を鳴らしたり言い立てたりするさま. ▼賞賛する場合に用いることが多い.

㊦ ~称羨 chēngxian / 舌を鳴らしながらしきりに感心する.

㊦ 人言~/あちこちから不満の音が聞こえる.

『発音』実際に発する感嘆や賞賛の舌打ちの音は声調も不定で、漢字表記も“啧啧”“咂咂”と書くこともある. ⇒ zā//zuǐ 【咂嘴】

②〈書〉鳥の鳴き声.

『学研漢和大辞典』(2002)では、

①象声词。形容声音轻细。多指鸟虫鸣声。(擬声語。声や音が軽くて小さいことを表す。多くは鳥や虫の鳴き声を指す)

②叹词。表示赞叹、叹息、惊异等。(感嘆詞。賛嘆、嘆息、驚異などの気持ちを表す)

③形容议论纷纷。(諸説紛々であることを表す)

と解釈している。

以上のように、“啧啧”と“啧啧”は、何れも「舌を鳴らす」といった動作を表すこともあるものの、それに付加された意味は、プラスの意味かマイナスの意味かが辞書によって解釈が異なる。従って、“啧啧”と“啧啧”がどのような意味を有するかについて更に詳細な考察が必要になってくる。そこで、まず現代中国語の用例を中心に考察し、次に、古代の用法にも遡り、その継承関係についてもすこし触れてみたい。

### 3.2 賞賛の意味について

用例から2つの特徴が見られる。①“啧啧”は、重なった形として使われる用法が

7) 依藤醇等編『中日辞典(第2版)』小学館 2003

于：中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

多い。②賞賛や賛嘆などのプラスの意味を表す用法が少ない。

賞賛の意味には、「賞賛する」という意味だけでなく、「賞賛しうらやむ」「賛美する」「ほめる」などの意味も含まれる。例えば、

(6) 全厂的人都纷纷来观光, 啧啧称赞之声不断。(阵痛・邓刚)

(7) 它算不上是个富队, 去年十个工分只有三角八, 但这已使天堂的社员啧啧称羨了。(被爱情遗忘的角落・张弦)

(8) 马利华啧啧称赞室内装饰。(热狗・徐坤)

(9) 秋日的山村, 就这样神奇地把大自然的生气转化为一种蓬勃的生活气息……车上的日本人都如醉如痴地欣赏风景, 啧啧赞美, 兴奋地叫着, 大声发着议论。(石头说话・冯骥才)

(10) 新郎极有钱, 新娘极漂亮, 宾客们怀着艳羡、嫉妒、自卑等种种复杂的心情啧啧称赞着这对新人。(爱情错觉・连载之四・姜丰)

(6)～(10) には、“称赞 zanzhan” “称羨 chengxian” “称赞 chengzan” “赞美 zhanmei” といった、「賞賛しうらやむ」「賞賛する」「賛美する」などの意味を表す動詞が使われている。“啧啧” は、それらの動詞の前に置かれて、副詞的修飾成分となり、舌を鳴らす擬声音として使われている。これらの文は、“啧啧” がなくても、文が成り立ち、伝達しようとする意味も殆ど変わらないが、“啧啧” が使われることによって、まるでその声が聞こえてくるような効果が果たされることになる。従って、日本人が大自然のすばらしい風景に感動して賛美する場合、ふつう「舌を鳴らし」たり「舌打ち」をしたりはしない<sup>8)</sup>が、(9) のように、中国人の作家が書いたものには、“啧啧赞美 (舌を鳴らしながら、賛美の声を上げた) のような描写が使われていた。

“啧啧” のこの賞賛の意味は、少なくとも明の時代 (1368 年～1644 年) に遡ることができる。例えば、

(11) 每到之处, 见了的无不啧啧称赏。(明・初刻拍案惊奇・下)

8) 日本語の「舌を巻く」は、大自然のすばらしさに感動する場合には使わないが、他者への関心には使うので、すこし似ていると言えるかもしれない (定延氏の教示による)。

エクス 言語文化論集 巻下先生退職記念号

(12) 张孝基叠出两个指头，说将出来，言无数句，使听者无不啧啧称羨。(明・醒世恒言・上)

(13) 戴宗啧啧称赞道：(明・水浒传全传・下)

(14) 邵氏一口说了满话，众人中贤愚不等，也有啧啧夸奖他的，也有似疑不信，睁着眼看他的。(明・警世通言・下)

(11) ～ (14) も、現代中国語の用例と同じように、文中に、“称赏 chengshang” “称羨 chengxian” “称赞 chengzan” “夸奖 kuajiang” “赞美声 zanmeisheng” といった、「賞賛する」「賞賛しうらやむ」「ほめる」「ほめたたえる」などの意味を表す動詞が使われており、“啧啧” がそれらの動詞の副詞的修飾成分として舌を鳴らす擬声音を表すものである。

しかし、舌を鳴らす擬声音といっても、単なる擬声音ではなく、それにいろいろな意味が付加されているようである。次の (15) ～ (19) のように、文中に、“赞美” “称赞” “称羨” “称赞” “赞美” といった動詞がなく、“啧啧” だけでも、「賞賛する」「賞賛しうらやむ」「ほめる」などの意味も読み取れる。

(15) 我高兴得自不必说，奶奶“啧啧”地直说现在人真能。(人民日报・1995)

(16) 不久前，上海票友们点名要看谭派正宗的《连环套》，谭元寿连文带武唱了一整出，票友们尽情叫“好”，“啧啧”不断。(谭派掌门人一谭元寿・方芝)

(17) 说完又咂一阵嘴，发出一串香甜的“啧啧”声。(人民日报・1996)

(18) 啧啧，真好看！(受戒・汪曾祺)

(19) 啧啧，现在小姑娘真大方。(浮出海面・王朔)

例えば、(18) は、「zezeze、ほんとにきれいだね!」、(19) は、「zeze、いまの子、なかなかおっとりしている」という意味である。この zeze は、舌を鳴らす擬声音だけではなく、それに付加され、しかもある程度固定された、例えば「賞賛する」「賞賛しうらやむ」「ほめる」といった付加意味も表出していると言えそうである。

### 3.3 感嘆の意味について

感嘆の意味には、「賛嘆する」「感心してほめる」「感心してため息をつく」「驚嘆



于：中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

する」「驚いて感心する」「珍しさに感心する」などの意味も含まれる。例えば、

- (20) 众人一片啧啧赞叹，也有些惊异：这小子似不寻常！（蒋经国与章亚若之恋·连载之十二·胡辛）
- (21) 张妈走过左边，打着扇子，眼看着绣的东西，不住的啧啧称叹：（绣枕·凌叔华）
- (22) 一科接一科地闯过去，使我或多或少地增加了点儿自信，那棒棒的身体令医生们啧啧称道。（停电·田万生）
- (23) 严晓强是被撞破了脑袋，脑浆已然外溢，医护人员们用尽了一切办法，也无法挽回他的生命，但几位医生和护士后来都啧啧感叹——严晓强的机体原属最健康生命力最旺盛抵抗力最顽强的那一类，（曹叔·刘心武）
- (24) 当列车内的电子显示屏显示出当日的最高时速 426 公里时，车厢内一阵骚动，乘客们不禁发出一声声啧啧惊叹。（人民日报 1995）
- (25) 几位女士对着墙边挂的印花皮啧啧称奇：这些正面或绒面印了花的皮，简直跟花布一模一样，五彩缤纷。（市场报 1994）

(20) ～ (25) には、“赞叹 zantan”“称叹 chengtān”“称道 chengdào”“感叹 gāntān”“惊叹 jīngtān”“称奇 chéngqí”といった「賛嘆する」「感心してほめる」「感嘆する」「驚嘆する」「珍しさに感心する」などの意味を表す動詞が使われている。“啧啧”は、前節の「賞賛の意味」を表すものと同じように、擬声音として動作を限定する副詞的修飾成分であり、“啧啧”がなくても、伝達しようとする意味は殆ど変わらない。

“啧啧”のこの感嘆の意味は、元の時代（1206 年～1368 年）にすでにその用例が見られた。例えば、

- (26) 遂同至书房，见其摆设齐整，啧啧叹羨。（元·话本选集 2·唐解元出奇玩世）
- (27) 老者看了又看，啧啧叹赏，问道：（明·醒世恒言·下）
- (28) 秦之老母，扶杖旁观，啧啧惊叹；二弟及妻、嫂，侧目不敢仰视，俯伏郊迎。（清·东周列国志·下）
- (29) 旁边亲亲眷眷看的人那一个不啧啧称叹道：（明·二刻拍案惊奇·上）
- (30) 听得一班同僚都目瞪口呆，赞叹声啧啧不绝。（民国·明代宫闱史）

(31) 一房的人見周氏已能开口，莫不啧啧称奇。(清・续济公传・中)

(32) 河下船中有个福建公子，令从人将衣被在船头上晒曝，锦绣璨烂，观者无不啧啧。(明・二刻拍案惊奇・下)

さて、意味の連続性という観点から見れば、「賞賛の意味」と「感嘆の意味」とが意味的につながっているものと考えられる。「感嘆の意味」に見られる「賛嘆する」の用法は、正に「賞賛の意味」と「感嘆の意味」をつながらせるものであり、両方の用法を兼有するものであろう。従って、文中に“赞叹”“称叹”“称道”“感叹”“惊叹”“称奇”や“赞美”“赞赏”“称羨”“称赞”“赞美”といった動詞が使われていない場合、“啧啧”や“啧啧”は「感嘆の意味」か「賞賛の意味」かがはっきりと読み取れないものもある。例えば、

(33) 瞧这老太太 99 岁了，精神还这么好，啧啧！(读者・合订本)

(34) 啧啧，老头子，你看我这孙女像七仙姑不？(太阳出世：池莉)

(33)「このおばあさんを見て、もう 99 なのよ。まだ大変元気で、zeze！」のように、ここの zeze は、「驚いて感心する」や「感心してため息をつく」といった意味がまず読み取れるであろうが、「賞賛」の意味も否めない。それに対し、(36)「zezeze、あなた、この子、七仙姑に似ているじゃない」のように、ここの zezeze は、明らかに「感嘆の意味」と「賞賛の意味」の両方の意味が読み取れるものである。

「感嘆の意味」と「賞賛の意味」はいずれもプラスの意味を表すものなので、zeze が多義的であっても、さほど言語コミュニケーションにおける理解を妨げるものではなさそうである。しかし、“啧啧”や“啧啧”は、そのすべてがプラスの意味として使われるものではない。マイナスの意味として使われることもある。

### 3. 4 困惑・不満・さげすみの意味について

困惑・不満・さげすみの意味には、それに近い意味のものも含まれている。更なる詳細な分類がむずかしいので、「困惑・不満・さげすみ」を上位概念として記述したい。例えば、

(35) 會同難，嘖有煩言。(左傳・定公四年)

于：中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

- (36) 谁要是买价格较高的商品而付零钞，收款者肯定会啧啧有烦言，甚至拒收。（市场报 1994）
- (37) 有人啧啧抱怨，有人打算再次抗争。（公关汽车咏叹调・刘心武）
- (38) 戈玲看著南希一审通过的稿子，啧啧批评：（谁比谁傻多少・王朔）
- (39) 啧啧，又是细菌、细菌……（咖啡炸酱面・苏叔阳）
- (40) 胡济邦笑盈盈迎上来，逐个打量眼前这些“脱下戎装换红装”的将军和夫人们，嘴里微露啧啧之声，显然对她的学生们的“作业”不很满意。（从欧战记者到外交礼宾教官・胡济邦）
- (41) 刘：哎哟，啧啧啧啧，你瞅你们俩这是什么样子，这是！（编辑部的故事・飞来的星星）
- (42) 啧啧，他怎么成了这副样子啦：头上扣着破柳条帽，又宽又厚的安全带紧扣在没罩衣的旧棉衣外面，长统水靴上油满了黄泥巴，满身满脸的雪屑和白岩石末子，（天山深处的“大兵”・李斌奎）
- (43) 不往屋里让，也不倒水，你看，啧啧！（柏慧・张炜）
- (44) “啧啧啧啧，这么高，底下有没有什么保护措施？”（痴人・王朔）

(35)～(44) の“啧啧”や“啧啧”は、困惑、不満、さげすみなどの意味を表している。このような用法は、最も古い用例で、春秋時代（紀元前 770 年～紀元前 476）に作成されたとされる《左傳》に見られた。この“啧啧”について、《王力古漢語字典》(2000)<sup>9)</sup>では、次のように解釈している。

呼聲。説文：“嘖，大呼也。”引申為爭吵的樣子。荀子正名：“故愚者之言，嘖然而粗，嘖然而不類。”左傳定公四年：“會同難，嘖有煩言。”（呼び声。説文<sup>10)</sup>：「嘖は、大きな声で叫ぶことである」。そこから言い争う様子を表す用法に派生する。）

それに対し、“啧啧”について、《王力古漢語字典》は、次のように解釈している。

象聲詞。①鳥蟲鳴聲。爾雅釋鳥：“宵鴈嘖嘖。”唐李賀南山田中行：“塘水嘖嘖蟲

9) 王力主編《王力古漢語字典》，中華書局 2000。

10) 『説文解字』の略語。一四編。後漢の許慎の著。100 年ごろ成立。中国で最も古い漢字の解説書。

## エクス 言語文化論集 卷下先生退職記念号

嘖嘖。”②咂嘴聲，表示讚嘆。飛燕外傳：“音詞舒閒清切，左右歎賞之嘖嘖。”（擬聲詞。①鳥や虫の鳴き声。②舌を鳴らす音、賛嘆を表す。）

つまり、古代中国語では、“嘖”と“嘖嘖”の間に違いがあるようである。“嘖”と“嘖嘖”との意味拡張関係については、別稿に譲りここで論じないこととするが、少なくとも、そのような違いが“嘖有煩言”以外は、現代中国語ではすでに見られなくなったのである。また、2.1.1と2.1.2で考察してきたように、“嘖嘖”も必ずしも“咂嘴聲，表示讚嘆。（舌を鳴らす音、賛嘆を表す。）”という意味しか持たないものではない。特に（38）～（47）の用例に示されているように、困惑、不満、さげすみなどの意味としても使われている。

“嘖嘖”のこの意味は、明の時代にすでにその用例が見られた。例えば、

（45）吴起杀妻，易牙烹子，斯其人欤，奈何世之贤瑞者嘖嘖耶？（明・万历野获编）

（46）把个三宝老爷吓得口里只是打嘖嘖，说道：（明・三宝太监西洋记・二）

（47）皆嘖嘖惊为异焉。（清・清代野记）

（48）夫妻听其言，故嘖嘖诧异之。（清・聊斋志异・上）

（49）玄宗还独坐呆想，嘖嘖叹异。（清・隋唐演义・下）

ところで、困惑、不満、さげすみなどの意味かどうかの判断は、（37）と（38）のように、文中に使われている“抱怨（愚痴る）”“批评（批判する。非難する）”といった文言によるものもあれば、（39）の「zeze、またばい菌、ばい菌……」、（43）の「部屋の中にも入れくれないし、お茶も出してくれない。見てよ。ze！」、（44）の「zezeze、こんなに高いの！その下になにか安全措置取ってるの？」のように、文脈によるものもあり、後者のほうが顕著にあらわれる。

要するに、文中に意味指示の文言が存しない場合、“嘖”や“嘖嘖”は、文脈の指示によってどのような意味として使われているかを判断するしかないのである。特に、次の（50）と（51）のように、

（50）有说那少妇不甚端的，有说死者身死不明的，人言嘖嘖，莫衷一是。（清・施公案・三）

（51）朝臣统是惊疑，不知葫芦里卖甚么药，惟嘖嘖私议罢了。（民国・五代史演义）

于：中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

ここの“啧啧”は、(50)「あの若妻が怪しいと言っているものもいれば、死者の死因が曖昧だと言っているものもいて、様々な言い方が飛び交っていたりして、なかなかまとまらない」のように、ただ人々が話したり議論したりする様子を表しているだけであろう。換言すれば、“啧啧”はその表現自体がプラスやマイナス意味を持たず、文脈や発話場面によって付加意味が生ずるものと考えられる。つまり、“啧啧”は、文中の文言の意味指示と、文脈や発話場面の意味指示がなければ、どのような意味として使われているかが不明である。

### 3.5 “啧啧”や“啧啧”の多義性について

以下、“啧啧”や“啧啧”の多義性について、もうすこし考察してみる。用例の中に、次のようなものも見られる。

(52) 钻进了汽车，叶芳打着火，在一片不知是赞赏还是惋惜的啧啧声里，两个人离开了油库。(蒋子龙)

(53) 那种稀里哗啦的铁环声掠过穷街陋巷时，远近的穷女人都会“啧啧”地艳羡和嫉恨：(读者・合订本)

この“啧啧”は、(52)「車に入った。葉芳がエンジンをかけた。賞賛か嘆き惜しみかわからない zeze のなか、二人は、石油タンクを後にした」、(53)「あの鉄輪の音がガラガラと貧しい裏通りの小路をかすめて通るたびに、遠近の貧乏な女性たちは羨んだり、妬み憎んだりして、zeze と言う」に示されているように、それぞれの文脈の中で「賞賛する」と「嘆き惜しむ」、「羨む」と「妬み憎む」の両方の気持ちを表すことになる。

しかし、(54) では、

(54) 这个案子充满了鲜血和传奇，曾在城里被人们茶余饭后议论过很久，听者莫不发出一连串的啧啧声，言谈时常常一时难分正义和邪恶。(埋伏・方方)

“啧啧”は、(54)「この事件は、流血と伝奇的色彩が満ちており、一時的に町の中で、人々の暇なときの話題であった。話を聞いた者は誰でも絶えず zeze というようになり、時々話しの中で正義か邪悪かがなかなかはっきりと辨别できない場合もある」

エクス 言語文化論集 卷下先生退職記念号

のように、賞賛か驚嘆か憎悪かがはっきりとしない。

更に、次の(55)～(58)の“嘖”は、付加意味がなかなか読み取りにくい。

(55) “知道你已經看出來，這個電話就是來向你說明的，嘖，讓我說嘛……” 清華的聲音透着严厉，(糜爛・連載之六・唐穎)

(56) 宝贝——別跑，別跟他們亂跑，給阿爸當宝贝——嘖！(黑駿馬・張承志)

(57) 過去，我們對他是不夠关心的，嘖！(浪漫的黑炮・張賢亮)

(58) 嘖，讓我想一想，最好在明天，明天一早，我們去婚姻注冊處登記，這樣，我們立刻可以成為夫婦了，你說這樣夠不夠刺激？(合家歡・岑凱倫)

(55) は、「『あなたはすでに分かったことを知っている。だから、この電話は、説明したいためにかけたんだ。ze、言わせてくれよ……。』清華の声には厳しいものが感じられる」、(56) は、「いい子、いい子、——走らないで、あいつらと一緒に走り回らないでね。父ちゃんのいい子になってね——ze！」、(57) は、「これまで、確かに私たちは彼のことをあまり気にかけていなかった。ze！」、(58) は、「ze、ちょっと考えさしてくれ。もっともいいやり方がある。明日、明日の朝、結婚登録所に結婚届けを出そう。こうすれば、おれらすぐに夫婦になっちゃうから。どうだい。かなり刺激的だろう？」という意味になる。ここの“嘖”は、付加意味があるとしても、明確ではないし、また、人によって解釈が異なるであろう。特に、(58)の“嘖”は、明らかに日本語の「えーとですね」に相当し、会話をつながらせる機能を有するものであろう。

### 3.6 “嘖”の表現形式と意味のまとめ

以上考察してきたことをまとめてみると、次のようになる。

1) “嘖”は、単漢字で使われるものもあれば、“嘖嘖”や“嘖嘖嘖”のように重なって使われるものもある。

2) 現代中国語では、単漢字で使われる場合、次のような制限が見られる。

a. “嘖有煩言”のように、熟語として使われる。

b. 殆どの場合、副詞的成分としてではなく、擬声音として使われる。

于：中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

3) 現代中国語では、“啧啧”や“啧啧啧”のように重なって使われる場合、単漢字の制限が見られない。副詞的成分として使われることもあれば、擬声音として使われることもある。

4) 特に擬声音として使われる“啧啧”や“啧啧啧”は、舌を鳴らす音を表すものであるが、その意味が多義的であり、「賞賛する」「賞賛しうらやむ」「賛美する」「ほめる」のような意味を表すものもあれば、「賛嘆する」「感心してほめる」「感心してため息をつく」「驚嘆する」「驚いて感心する」「珍しさに感心する」のような意味を表すものもあり、また、「愚痴る」「批判する」「非難する」「困惑する」「不満だ」「さげすむ」のような意味を表すものもあり、更に、どちらの意味も読み取れにくく、ただ会話をつながらせる機能を有するものもある。

5) “啧啧”や“啧啧啧”は、4) に示されるような意味を有するとしても、それが文中に文言の意味指示と、文脈や発話場面の意味指示によって生じたものであり、必ずしも固定した特定の意味を有するものではない。換言すれば、文中に文言の意味指示と、文脈や発話場面の意味指示がなければ、“啧啧”や“啧啧啧”は何を意味するかが不明である。

## 4. “啞” “啞嘴” について

### 4.1 “啞” “啞嘴” についての辞書の解釈

“啞” “啞嘴” は、“zā” “zā zuǐ” と発音し、“啞” は、“啞啞” のように重なった形として使われることがない。

“啞” の意味について、

《現代漢語辞典》第5版(2006)では、

① 用嘴唇吸：～了一口酒。(唇で吸う。すする。)

② 啞嘴。(舌を鳴らす。)

③ 仔细辨别(滋味)：他美美地～着话梅的滋味。(注意深く(味を)吟味する。)

## 《現代汉语大辞典》(2000)

- ①吮吸；叮咬。(吸う。すする。刺す。)
- ②品尝。也指嚼食。(味わう。「かむ」を指すこともある。)
- ③以舌尖抵齿作声，表示称赞、羡慕、惊讶、惋惜等。(舌の先を歯にくっつけて発音する。賞賛・羡慕・驚き・嘆惜の気持ちを表す。)
- ④指妇女乳房。(女性の乳房を指す。)
- ⑤方言。语助词、表示请的意思。(方言。語気助詞、「どうぞ」の意味を表す。)

『中日大辞典』(1987)では、

- ①舌うち(する)〔～嘴 zuǐ(儿)〕同前。
- ②味わう(って食べる)〔～滋 zī 味〕味を味わう。
- ③吸う。すする。〔～了一口酒〕酒を一口すする。
- ④→〔咂儿〕

『中日辞典第2版』(2003)では、

- (1) 吸う。すする。『稍稍 shāoshāo ～了一口／軽く一口すすった。』
- (2) (=咂嘴 1zuǐ) 舌を鳴らす。
- (3) 味をみる。吟味する。

と解釈されている。

“咂嘴”の意味について、

《現代漢語辞典》第5版(2006)では、

- 〔动〕舌尖抵住上颚发出吸气音，表示称赞、羡慕、惊讶、为难、惋惜等。(舌の先を上顎にくっつけて吸気音を発音し、賞賛・羡慕・驚き・困惑・嘆惜の気持ちを表す。)

《現代汉语大辞典》(2000)では、

- 用舌抵齿，嘴唇上下开合作声。(1) 表示称赞、企慕等。(2) 表示为难、惋惜等。(舌を歯にくっつけて、唇を上下に開いたり閉じたりして発音する。)
- (1) 賞賛・敬慕などの気持ちを表す。(2) 困惑・嘆惜などの気持ちを表す。)

『中日大辞典』(1987)では、



于：中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

舌うちする：羨慕・賛美・嘆賞・嘆惜の気分を表す。〔刘老老此时点头咂嘴念佛而已〕（紅6）劉ばあさんこの時は、うなずいたり舌うちしたり念仏を唱えたりするだけだった。

『中日辞典第2版』（2003）では、

（称赞・羨望・驚き・困惑などを表すときに）舌を鳴らす。

¶ 他一边儿～，一边儿不住地说：“真好吃，真好吃！”／彼は舌を鳴らしながら、うまい、うまいとしきりに言う。

¶ 他满意地咂了一下嘴／彼は満足げに舌を鳴らした。

と解釈されいている。

“咂”は、動詞であるので、品詞の分類において、副詞的用法や擬声音として使われている“啧啧”と異なる。“咂嘴”はV+Nという構造であり、“嘴”が“咂”の動作対象となる<sup>11)</sup>。このような違いは、何を意味するのかについて次節から明らかにしていきたい。また、“咂”と“咂嘴”は、以上の辞書の解釈に示されるように、複数の意味を有するが、以下は「舌を鳴らす」という動作を中心に考察を進めたい。

#### 4.2 付加意味を持たない「舌を鳴らす」動作

“咂”には、「吸う」「すする」という動作を表す意味がある。これはプロトタイプの意味かどうかが定かではないが、「吸う」「すする」という動作を行う際、音を伴うことがまず考えられるであろう。“咂”は、舌を動かしたり、唇を動かしたりして「舌を鳴らす」のような動作を行うので、ただ動作を行うだけで付加意味を持たない“咂嘴”<sup>12)</sup>の用例がまず容易に見つかる。例えば、

（59）小梅侧耳倾听小陈的声息，开头小陈辗转反侧，后来就安静了，时不时响起婴儿般的咂嘴声。（割草的小梅・连载之二・叶蔚林）

11) “啧啧”や“啧啧”にもV+Nのような構造が見られる。例えば、“老太太啧啧着嘴，上下打量着我，嘴一瘪：（许爷・王朔）”、“秀秀啧啧了啧啧，不说话了。（小战的黄昏・礼平）”、“干了酒，康孝纯啧啧嘴，很不习惯，到厨房转了圈，拿来一个心里美，切成几片，和金竹轩两人嚼了起来。（双猫图・邓友梅）”。しかし、このような用法は極めて少ないので、“咂”の誤用とも考えられる。

12) “咂舌”のように、動作の対象が“舌”であることもある。

## エクス 言語文化論集 巻下先生退職記念号

(60) 那男人可能是一路风尘，过于饿了，不住地在队伍后边咂嘴巴，吞口水。(绿月亮 10・彭荆风)

(61) 一仰脖，他把半碗酒一口吃下，咂了几下嘴。(四世同堂・老舍)

(62) 有的拿着碗白干酒，让让大家，而后慢慢的喝，喝完一口，上面咂着嘴，下面很响的放凉气。(骆驼祥子・老舍)

この“咂嘴”は、(59)「ときどき赤ちゃんがするような舌を鳴らす音が聞こえる」、(60)「あんまりにも腹が減ったろうか、隊伍の後でしきりに舌を鳴らしたり、唾を飲み込んだりしていた」、(61)「かれは、お椀に半分だったお酒を一気に飲み干してしまい、数回舌を鳴らした」、(62)「一口飲んだら、上は舌を鳴らし、下は大きな音で屁をこく」のように、明らかにただ「舌を鳴らす」という動作を表しているだけであって、プラスやマイナスの付加意味が見られない。特に、何の意味表出の必要もなく、「舌を鳴らし」てしまうのが特徴的である。

(63) 在旧金山的唐人街，也曾巴巴地寻到一家卖炸酱面的中国餐馆，搓着手咂着舌要了一碗炸酱面。(炸酱面・刘心武)

(64) 他呷了一口咖啡，出声地咂着唇舌。(多桅的帆船・刘心武)

(65) 不加掩饰地咳嗽、打喷嚏、打嗝、咂唇。(读者・合订本)

この3例の「舌を鳴らす」は、(63) 中華レストランに入り、ジャージャー麺を注文する際にしてしまったものもあれば、(64) コーヒーを飲んだ後に何げなくしてしまったものもあり、更に(65)「何も隠さずに平気で咳をしたり、くしゃみをしたり、げっぷが出たり、舌を鳴らしたりしていた」のように、「咳をする」「くしゃみをする」「げっぷがでる」とただ音が出るだけの意味もある。

このような用法は、明の時代から存在する。例えば、

(66) 姜金定看见天师扞实了他，他把嘴儿咂了两咂，把个头儿摇了两摇，心里想道：“天师大德，名下无虚。(明・三宝太监西洋记・一)

(67) 宝钗见问，悄悄的咂嘴点头笑道：“亏你今夜不过如此，将来金殿对策，你大约连‘赵钱孙李’都忘了呢！(清・红楼梦・上)

(68) 诸人先已熬急，苍蝇见血，乱抢乱吃，一片嚼声、咂声、吞声、咽声。(清・

海国春秋・上)

#### 4.3 美味の意味について

“咂嘴”は、食べ物や飲み物が美味である表現と共起して使われることが多い。例えば、

(69) 石岬坐起来，接过排骨吧唧吧唧吃起来，咂着嘴，很香的样子。(浮出海面・王朔)

(70) 如今，上、下班途中吃一碗麻得摇头、辣得淌汗、香得咂嘴的麻辣烫，成了不少人的嗜好，随处可见的摊点也成为市区的一大景观。(市场报 1994)

(71) 张全见房中摆子许多的日本糖果，拈着便吃，故意咂得嘴一片响，连说这糖果有味。(民国・留东外史)

(72) 一盘又是湖南风味的苦瓜辣椒炒肉丝吃得大家咂舌不已。(人民日报 1995)

ここの“咂嘴”は、(69)「石岬が上半身を起こして、スペア・リブをうけとり、もぐもぐと食べ始めた。舌を鳴らし、うまそうだった」、(70)「いまは、出勤や帰宅の途中で、一杯の、頭を振らせるまでにぴりぴりとしびれて、汗びっしょりとさせるまでに辛くて、舌を鳴らすまでに美味しい‘マアラアタン’を食べることが、たくさんの人の嗜好になっている」、(71)「張全は部屋にたくさんの日本のキャンデーが置かれているのを見て、それをとって食べ、わざと大きな音を出して舌を鳴らし、味がある、味があると連呼していた」、(72)「湖南風味のにがうり、とうがらしと肉の細切り炒めは、みんなの舌を鳴らせていた」のように、美味しそうに食べている様子や美味しいから舌を鳴らすということを表している。

“咂嘴”という動作を行えば、その口から出た音を“啧啧”で表現する。だとすれば、この2つの表現は同じ文脈に共起してもおかしくない。実際、その用例があった。例えば、

(73) 但见我们一个个吃得啧啧地咂嘴，他终于忍不住，一面在胸前划着十字，一面战战抖抖地举着刀叉，要去吃海参。(在俄罗斯捞海参・邓刚)

(73) は、「zeze と舌を鳴らしている」のような意味である。ここの“啧啧”は“咂

エクス 言語文化論集 巻下先生退職記念号

嘴”という動作が伴う擬声音を表す。如何に美味しそうに食べているかということ  
をまるで自分の目で見ているような描写である<sup>13)</sup>。

4.2 と 4.3 で考察してきたように、食べたり飲んだりする際に見られた“咂嘴”は、  
ただ「舌を鳴らす」という動作だけか、食べ物や飲み物が美味しいかのどちらかで  
あることを表すものであるが、食べ物や飲み物がまずいという意味はない。

#### 4. 4 賞賛の意味について

賞賛の意味には、「賛美する」「ほめる」「羨望する」などの意味も含まれる。例えば、

(74) “品尝，月光，”她咂咂嘴，赞美道，（陪都旧事・莫怀戚）

(75) 欧阳天风点头咂嘴的赞美他们：（赵子曰・老舍）

(76) 劳改队的医生在我走下磅秤时咂咂嘴，这样夸奖我：（绿化树・张贤亮）

(77) 嘴还不停地问这问那，连北京最近来的外国交响乐团的演出也羡慕地直咂嘴：（天山深处的“大兵”・李斌奎）

この用法は、“啧啧”と共通している。違うのは、“啧啧”が擬声音であるのに対し、“咂嘴”が動作の描写であるという点である。明の時代からすでにそのような用例が見られる。例えば、

(78) 行者见师父全不动念，暗自里咂嘴夸称道：（明・西游记・下）

(79) 众寇听罢，齐都咂嘴，连声夸好道：（清・施公案・一）

(80) 兆兰、兆蕙听了，点头咂嘴，啧啧称羨。（清・七侠五义・下）

しかし、“咂嘴”のこの賞賛の意味は、「美味の意味」を表すものと異なり、“賛美（賛美する）”“夸奖（賞賛する）”“羨慕（羨望する）”“夸（ほめる）”“夸好（賞賛する）”“称羨（賞賛しうらやむ）”などのような意味を指示する文言や文脈などがなければ、“咂嘴”だけでは、必ずしも読み取れるわけではない。

#### 4. 5 感嘆・驚きの意味について

感嘆の意味には、「賛嘆する」「感心してため息をつく」「驚嘆する」「驚いて感心

13) この意味は、日本語の「舌鼓を打つ」と似ている（定延氏の教示による）。

于：中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

する」などの意味も含まれる。例えば、

- (81) 曹叔讲完此公的遭遇后咂舌感叹说：(曹叔・刘心武)
- (82) “你可真舍得，”有个媳妇咂咂嘴，(雪天里・阎连科)
- (83) 人们象看大戏一样围着看，看得乱咂嘴，都说五爷算是洪福齐天了。(香与香・乔典运)
- (84) 那班客人个个吃得舐嘴咂舌，连称异味。(民国・清代宫廷艳史)
- (85) 他本人是个大学问家，他知识的渊博令人咂舌。(被绑架者的《在地下室》・程丹梅)
- (86) 这里的理论书贵些，但比起书价令人咂舌的新书店来，又无疑是霄壤之别了。  
(人民日报 1996)

この意味は、文中の文言の意味指示によるものもあるが、殆どの場合は、文脈や発話場面の意味指示によるものである。“啧啧”にも同じ用法が見られるが、それは、V + Nの“咂嘴”“咂舌”とは、構文的役割が異なる。つまり、“啧啧”が音で「感嘆・驚きの意味」を表すのに対し、“咂嘴”“咂舌”は、動作でそれを表すのである。この違いは、4.4 も同様である。このような用法は、清の時代の作品にも見られる。

- (87) 瞧了瞧那些听戏的，也有咂嘴儿的，也有点头儿的，还有从丹田里运着气往外叫好儿的，还有几个侧着耳朵不错眼珠儿的当一桩正经事在那里听的。(清・儿女英雄传・下)
- (88) 说罢，又连连摇头咂舌的说道：“好厉害，好厉害，了不得，了不得。(清・八仙得道・上)
- (89) 李氏连忙迎出，彼此拂袖道喜，道谢，又见了牡丹，一个个咂嘴吐舌，无不惊讶。(清・七侠五义・下)
- (90) 满屋里的东西都是耀眼争光，使人头晕目眩，刘姥姥此时只有点头咂嘴念佛而已。(清・红楼梦・上)

#### 4. 6 困惑・不満の意味について

「困惑・不満の意味」には、「躊躇する」、「困る」、「戸惑う」、「叱る」、「愚痴る」な

どの意味も含まれる。例えば、

- (91) 周弘背着女儿跑遍了南京所有的医院, 就诊医师不是咂嘴, 就是摇头。(读者・合订本)
- (92) 两年过去了, 一朋友问小王建立家庭的体会, 小王咂了咂嘴, 不知怎样回答是好。(读者・合订本)
- (93) 最后这句话很有力量, 伤科医生大为动容, 将他的伤口左看右看, 攒眉咂嘴了好半天, 说出一句话来。(红顶商人胡雪岩・高阳)
- (94) 用很不满意的神情, 咂着嘴巴说:(王洪文狂器“万体馆”・肖辛祖)
- (95) 陈北燕有人撑腰, 声音也亮堂了: 他揪我辫子把我绑树上还用火烧还掰我腿…唐阿姨咂着嘴点着我额头: 你, 一天不惹事你就难受。(看上去很美・王朔)
- (96) 这真是得寸进尺, 何顺摇摇头, 咂咂嘴: “我成了墙倒众人推, 破鼓滥人捶了, 我的好处你们当头的就一点看不到? 你在队里打听打听, 过去我何顺三天不打一伙架, 浑身憋得难受, 打架对于我来说, 就跟过年吃饺子一样美。可现在怎么样, 你看我还惹事吗? 我自己觉得都快够入党的条件了。”(赤橙黄绿青蓝紫・蒋子龙)

(91) の“咂嘴”は、病院の医者が周弘の娘の病状を見て、どうしようもないという気持ちになった際に行った動作である。(92) の“咂了咂嘴”は、王が友達に家庭を持つ感想を聞かれ、どう答えたらいいか戸惑っている際に行った動作である。(94) の“咂着嘴巴”は、非常に不満な態度で行った動作である。(96) の“咂咂嘴”は、上司に愚痴を言っていた際に行った動作である。しかし、これらの意味は、やはり文言の意味指示と、文脈や発話場面の意味指示がなければ、何れもははっきりと読み取れるものではない。

#### 4.7 満足の意味について

“咂嘴”には、また「満足の意味」を表す意味もある。この意味には、「満足する」や「気持ちよい」などの意味も含まれる。例えば、

- (97) “那再休息一下吧。”他低头, 却望见她说完那句话竟又不自觉地睡着了。缩

于：中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

一点，往他怀里再缩一点，直到好端端一个人儿缩成了一颗小小的虾米，窝在他的胸口，满意地咂咂嘴，甜甜地睡去。再没有声音。(http://post.baidu.com/f?kz=132112326)

(98) 搅不上 5 分钟就得用筷子沾点馅儿尝尝，然后，大声咂嘴，表示得意。(读者·合订本)

(99) 坐下来，他把剩下的一点肉吃了，又饮一口酒，惬意地咂着嘴。(烟叶·张炜)

(97) は「(彼女は) 満足そうにすこし舌を鳴らして、心地よさそうにだんだん眠っていく」、(98) は「大きな声で舌を鳴らして、満足していることを表している」、(99) は「気持ちよさそうに舌を鳴らしている」というような意味を表す。この3例には、“满意地 (満足そうに)” “表示得意 (満足していることを表している)” “惬意地 (気持ちよさそうに)” といった文言が共起しているから、ここの“咂嘴”は「満足の意味」を表すことになる。

#### 4.8 “咂”や“咂嘴”の表現形式と意味のまとめ

以上考察してきたことをまとめてみると、次のようになる。

1) 副詞的成分や擬声音として使われる“啧啧”や“啧啧”と違って、“咂”は、動詞であり、「舌を鳴らす」という具体的な動作を表すものである。従って“咂嘴”や“咂舌”は、V+Nという構造になる。

2) 飲食という場面に使われる“咂嘴”には、意味的傾向性が見られる。ただ「舌を鳴らす」という動作だけを表す場合もあれば、食べ物や飲み物が美味であるということを表す場合もある。ただし、食べ物や飲み物がまずいという意味は持たない。

3) 2) の用法をのぞけば、“咂”“咂嘴”“咂舌”は、「賞賛する」「賛美する」「ほめる」「羨望する」「感嘆する」「賛嘆する」「感心してため息をつく」「驚嘆する」「驚いて感心する」「困惑する」「躊躇する」「困る」「戸惑う」「叱る」「愚痴る」「満足する」「気持ちよい」といったさまざまな意味の表現として用いられるが、それ自体がそれらの意味を持つものではない。付加される意味は、文中の文言の意味指示か、文脈や発話場面の意味指示かのどちらかから読み取るしかないのである。例えば、

(100) 说话的时候经常咂咂嘴来显示自己的随意。开始觉得好玩, 就跟着咂咂嘴。结果就变成习惯了。比如无聊的时候就咂下嘴, 想完一件事的时候也咂下嘴, 还有尴尬的时候, 心情愉快的时候…… (<http://www.tianya.cn/publicforum/Content/water/1/470519.shtml>)

(100) は最も説得力のある用例であろう。この用例の意味は、「話す際に、よく舌を鳴らしたりして、自分が気楽にやっていることを見せている。最初は、おもしろ半分でまねをして舌を鳴らしていたが、とうとう癖になってしまった。例えば、退屈の時も舌を鳴らしたり、1つのことを考え終えたときも舌を鳴らしたりして、また、具合が悪いときや楽しいときも……」であることから、“咂嘴”は、どの場合に使ってもよいということになるであろう。つまり、結局、どのような特定の意味を付与するかが発話者の意図によるが、その意図は、聞き手が文言の意味指示、文脈や発話場面の意味指示によって読み取るしかないのである。

4) “嘖”や“嘖嘖”と異なるところは、“咂”や“咂嘴”が会話をつながらせる機能を有しないという点である。

## 5. 中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

以上で考察してきたように、日本語母語話者の「舌打ち」にあたるものを、中国語で記号化する場合、“嘖”“咂”“咂嘴”“咂舌”といった表現にあたる。“嘖”は、一回発音するものもあれば、“嘖嘖”“嘖嘖嘖”“嘖嘖嘖嘖”のように数回連続して発音するものもある。しかし、“咂”には、そのような複数回の連続発音が見られない。これは、“嘖”が擬声音で、文中で副詞的成分として使われるか、感嘆語として単独で使われるかであるのに対し、“咂”が、擬声音ではなく、具体的な動作を表す動詞であるからである。

“嘖”や“咂”“咂嘴”“咂舌”は、何れも「賞賛の意味」「感嘆の意味」「困惑・不満の意味」などのように、プラスの意味としても使われるし、マイナスの意味としても使われるが、両者が違うところは、“嘖”や“嘖嘖”が、どちらの意味も読



于：中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について

み取りにくく、会話をつながらせる機能を有するものもあるのに対し、“哂”“哂嘴”“哂舌”が、単に会話をつながらせるだけの機能を有さず、飲食の場面に使われる際に、「舌を鳴らす」という動作だけか、食べ物や飲み物が美味しいかのどちらかを表すことになるという意味的傾向性が見られるという点である。

しかし、“嘖”や“哂”“哂嘴”“哂舌”は、「賞賛の意味」「感嘆の意味」「困惑・不満の意味」などのような意味を表すことができると言っても、固有の意味として持っているわけではない。殆どの場合、文中の言語成分の意味指示や、文脈または発話場面の意味指示によるのである。その意味で、多義性を有するといえよう。発話者がある意図によって行った「舌を鳴らす」は、受信側が必ずしも送信側と同じように理解しているわけではない。

## 6. 終わりに

現在の日本語母語話者は、「舌打ち」を周りの人に不快感をあたえてしまい、苛立ちや侮蔑の感情が含まれるものとして認識しているようである。一方、その「舌打ち」に相当すると思われる中国語の“嘖”や“哂”“哂嘴”“哂舌”には、相手に不快感を与えたり、苛立ちや侮辱のような気持ちをさせたりする意味も含まれるが、現代の日本語ほど、意味が固定化され、コミュニケーションにおける意味伝達の偏りが見られるものではない。

しかし、“嘖”や“哂”“哂嘴”“哂舌”は、実際に発音されている際に行われる舌や唇の動き方が必ずしも同じものではない。例えば、《現代漢語辞典》第5版(2006)では「舌の先を上顎にくっつけて吸気音を発音する」と解釈されているのに対し、《現代汉语大辞典》(2000)では「舌を歯にくっつけて、唇を上下に開いたり閉じたりして発音する」と解釈されている。

実際、言語コミュニケーションの現場で中国語母語話者の発音を観察してみると、①舌と歯を使って発音するものもあれば、②舌だけを使って発音するものもあり、更に③舌を使わずに両唇を使って発音するものもある。また、息の使い方も違い、

①～③について息を吐いて発音する場合もあれば、息を吸って発音する場合もある。現場の観察から、息を吐いて発音するものは、プラスの意味がなく、殆どの場合、マイナスの意味になるのに対し、息を吸って発音するものは、さまざまなコミュニケーション機能を有するものであるという印象が得られた。

要するに、中国語母語話者の「舌を鳴らす」という動作やそれに伴う音が舌、唇、息の使い方によって違うコミュニケーション機能を持つとすれば、それらを明らかにしなければ、中国語母語話者の「舌を鳴らす」が持つコミュニケーション機能の全体像や日本語母語話者の「舌打ち」との違いが解明されることにはならないということである。それを今後の課題として更に調査し、明らかにしていきたいと思う。

#### 参考文献

- 金水敏 2003 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 岩波書店  
 定延利之他 1998 『「うん」と「そう」の言語学』 ひつじ書房  
 定延利之 2005 『ささやく恋人、りきむレポーター 口の中の文化』 岩波書店  
 田守育啓 2002 『オノマトペ擬音・擬態語をたのしむ』 岩波書店  
 丹野真智俊 2005 『オノマトペ(擬音語・擬態語)を考える—日本語音韻の心理学的研究』  
 あいり出版  
 友定賢治 2005 感動詞への方言学的アプローチ—「立ち上げ詞」の提唱(特集 感動詞—  
 未開拓の研究領域へ), 『言語』 34(11) 大修館書店  
 飛田良文・浅田秀子 2002 『現代擬音語擬態語用法辞典』 東京堂出版  
 ダイアン・ブレイクモア 1994 『ひとは発話をどう理解するか—関連性理論入門』 (武内  
 道子・山崎英一訳) ひつじ書房